

「ひろかわセミナー」を開催しました

☎教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎0943-32-0093

人権が尊重される住みよい町をめざし、10～11月に全3回のセミナーを開催しました
講演内容と感想の一部をご紹介します



県講師団講師 マザーアース
アーティスト代表
山口裕之さん

10/30 音楽に学ぶ人権学習 ～一人ひとりが大切にされる人権のまちづくりをめざして～

参加者の感想
私は今まであまり人のことに関心を持たなかったり、人と極力接しないようにしてきました。もっと人とかわかっていこうと思いました。また正しく知っていこうと思いました。すばらしいオカリナ演奏、ありがとうございました。(30代女性)

オカリナ演奏
「スピリット」「花は咲く」
や命の歌など、共生と人権の大切さを考える曲の演奏人は幸せになるため、この地上に生まれてきました。(絵画「街角のマドンナ」を見ながら) 私たちもこうやって、愛や思い、願いをかけられて生まれてきました。
また、民謡「竹田の子守歌」は、被差別部落の守子のことをうたっています。手をつなぎ合って生き抜くという、命の歌です。

11/7 「人権感覚」って何? ～それは見えないものを見る「〇〇力」です～

参加者の感想
想像力とは見えないものを見ること、人と人のきずなをつくるもの。差別は人と人の関係を断ち切るもの。迷信についても知り、自分自身の偏見にも気づくことができました。(50代女性)

人権感覚とは、だれかの人が傷つけられているときにおかしいと感じ、だれかの人が守られているときに好ましいと感じる感覚です。人権感覚を養うには、見えないものを見る、自分事にする想像力が必要です。
人権問題において大切なことは、人とつながること、自由・平等・共生を尊重すること、人権問題をリアルに知り、当事者の声を聴くことです。聴こえない声に耳を傾けましょう。



久留米市人権啓発センター嘱託専任講師
井上正史さん



アマチュア落語家
そこつやかんしん
粗忽家勤心さん

11/14 落語で語る男女共同参画

参加者の感想
落語というわかりやすい手法で男女共同参画について学べるのは良かった。最後まで飽きることなく聞くことができたし、心にも残りました。日々の中で意識して男女共同参画について考えなくてはいけない世代だと改めて思いました。(50代女性)

落語「粗忽の釘」
まだ男女共同参画が社会に浸透していなかった江戸時代。男性優位な風潮があった中、おつちよこちよいの亭主としつかり者の女房夫婦の引越し模様を語る
広川町男女共同参画基本計画の基本目標は、性別による固定的な役割分担意識や性別など、社会的に作られたものです。そのことを理解したうえで、皆の意識を変える啓発活動を強化していく必要があります。

広川町の学校教育

文部科学大臣表彰の受賞と 教育週間の取り組み

地域学校協働活動が 文部科学大臣表彰を受賞

12月2日(月)、広川町が取り組んでいる地域学校協働活動(広川町教育力向上委員会)が、文部科学大臣表彰を受けました。

地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力向上を図るもの。幅広い住民が参画し、

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域創生を目指しています。

広川町では全小中学校を一つのコミュニティ・スクールとし、学校運営協議会や広川町教育力向上本部が、「放課後学習活動」「社会奉仕・自然体験活動」「学校支援活動」の3つを進めています。

今回文部科学大臣表彰を受けたのは、



全国100の団体。広川町の地域学校協働活動は、その内容が他の模範になると認められ、表彰を受けました。その活動内容を紹介します。

●放課後学習活動

広川中学校では放課後、生徒の基礎力、応用力を養うため、地域学校協働活動推進員が1時間×週2日、「寺子屋」活動を行っています。

夏休みの5日間は、小学5年生と中学1年生が学力向上講座「サマースクール」に取り組んでいます。小学生は1日3時間、中学生は1日2時間、少人数で地域住民や高校生、大学生ボランティアから指導を受け、各学校の課題に応じた学習に取り組んでいます。

●社会奉仕・自然体験活動

広川町の企業を親子で見学する「親子で工業団地見学会」、広川町と久留米市を夜から翌朝にかけて親子で往復する「親子ふれあい

ナイトハイキング」、大自
然の中でさまざまな体験を
する「子ども会リーダー研
修」などを行っています。

●学校支援活動

平成17年度から行われて
いる「通学合宿」では、地
域の子どもたちが公民館に
宿泊(3泊4日)し、それ
を地域と学校が一緒に見

守っています。町内すべて
の公民館では「きらめき学
習」も行われています。

そのほか読書リーダー養
成講座や土曜ネット活動、
小中学生意見発表会、教育
講演会、持とう「私の夢」
講演会、子ども見守り隊、
国指定史跡文化財「石人山・
弘化谷古墳」活用事業など
を行っています。



広川中学校の「寺子屋」活動



親子で工業団地見学会

お問い合わせ

教育委員会事務局
学校教育係

☎0943-32-0093
内線 262、263

持とう「私の夢」講演会

広川中学校で11月14日(木)、農家の弓削孝儀氏による講演会が行われました。生徒が自身の今と将来について考えることで、将来に夢を持ち、その夢を自分の仕事として考えることを目的に、平成24年度から行われています。

弓削孝儀氏

中広川小・広川中出身、元JAふくおか八女青年部委員長



挫折や失敗は新しい夢との出会いだ

小学生のころは先生、中学生のころはエンジニアになるという夢がありました。受験に失敗したり、困難にぶつかったりといった挫折を味わったとき、家族や昔からの友達が、新たな夢への挑戦を後押ししてくれました。周囲が支えてくれたおかげで、今の自分があります。

イチゴや茶、米作りにおいて、肥料の量、農薬の種類など、失敗の連続でした。しかし、失敗の数だけ知識が増え、同じ失敗を繰り返さないようになり、少しずつ良い方向に向かいました。イチゴの収穫量は20%増え、お茶づくりコンテストでは県内2位となるなど、失敗という種が成功の芽を出したと実感しました。失敗の数だけチャンスがあるのです。

これらの結果は家族や先輩、後輩の協力があったからこそです。一生懸命働いて、いっぱい稼いで、いっぱい遊ぶ。私の作った農産物で人が幸せを感じ、息子や娘の将来になりたい職業の中に「農業」が入る。それが今の私の夢です。皆さんも家族や友達を大事に、夢を持って人生を楽しんでください。

小中学生意見発表会と教育講演会

11月16日(土)、町民交流センター「いこつと」で、町内の小中学生12人による意見発表会が行われました。発表者は町のことや世界のこと、命のことなど、さまざまな演題について自分の意見を述べました(演題は左参照)。

その後の講演会では、田口実氏(KDDIスマホ・ケータイ安全教室認定講師)からスマホやケータイなどによるトラブル事例が紹介され、子どもたちの情報機器の安全な使い方について考えました。

演題と発表者(発表順)

- 命(市岡夢渚さん・広川中2年)
- 地球の将来(町田大輔さん・広川中2年)
- 広川町について(井上月花さん・広川中1年)
- 親切から学び考えたこと(鹿毛愛佳さん・広川中1年)
- 夢と時間(後藤海努さん・上広川小6年)
- 命のビザから学んだこと(樋口葵さん・上広川小6年)
- ぼく達にできること(緒方裕夢さん・中広川小6年)
- SHOW TIME～よりよい学年を目指して～(山村綾音さん・中広川小6年)
- 応援合戦で(小田和佳さん・中広川小6年)
- ぼくの将来と食料の将来(中島南登さん・中広川小6年)
- 日本とニューカレドニア(田島桃奈さん・下広川小6年)
- ホームステイで学んだこと(野田菜々李さん・下広川小6年)



命の授業 乳幼児触れ合い体験学習と

広川中学校で11月19日(火)、今年度最後の「乳幼児触れ合い体験学習」と「命の授業」が行われました。生徒たちがさまざまな講師から話を聞いたり、体験活動をしたりして命について考えるもので、学校と保護者、地域、行政が協働で行っています。

学習後、指導の中心となった広川中学校の宮原佳子主幹教諭は「自身の家庭を見つめて将来を考え、工夫する力がついてきているようです」と生徒の成長について語りました。

